

Fureai

Fujita Related All Information

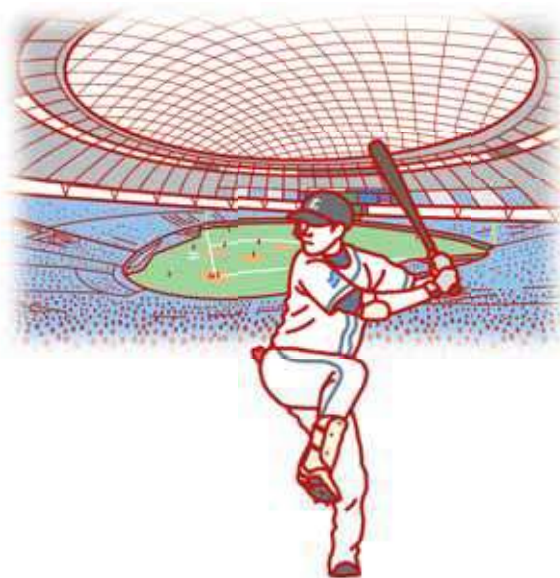
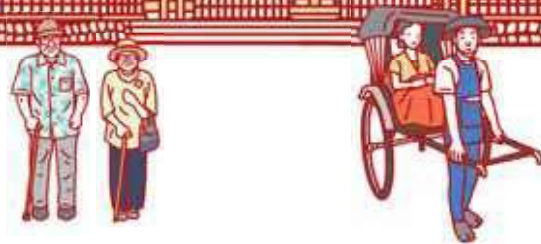
2018 8.1
Vol.
266



【平成29年度下期 優秀小集団】

**困難にも屈せず
成果を収めた
各チームの軌跡。**

【経済産業省「地域未来牽引企業」に認定】
地域経済を牽引する企業として
更なる付加価値創出を。



平成29年度 下期
小集団活動

優秀小集団

- 1 テーマ選定の経緯
- 2 今回の活動で苦労した事
苦労に対して工夫した事
- 3 活動の成果

三条支店／ブランキング 200t1号機の 作業見直しによる生産性向上

- 1 200t1号機は、円形の製品を1枚から最大4枚まで同時に抜く事が出来る金型に対応してはいますが、集積は一箇所で行う為に集積トラブルによるライン停止が発生する為、改善して作業性向上を図りたいと思いをしました。
- 2 活動当初は集積トラブルの解消を図る活動でしたが、活動期間中に集積製品の荷崩れが発生させてしまい、安全な集積方法も同時に実現させる為に、荷崩れを起さない集積方法を考え、試行錯誤しながら作製しました。
- 3 今まで使用していた集積治具・作業方法が最善と想って日頃から作業していた為、ライン停止が発生するのもしつ方ないと思っていました。しかし今回の活動で各作業を見直して改善を行う事で、生産性向上と安全を達成出来ました。

評価ポイント

方法や設備の改良など様々な対策で得た成果と、止めとして実行した標準化を評価した。高い目標値で目標達成には至らなかったが、今後もゼロを目指し更なる改善・応援者のOPL・他の多列集積トラブル防止への展開を期待したい。

東北コイルセンター／倉庫班 フープ製品台木付け 作業の時間短縮

- 1 フープ出荷担当者は出荷ピッキング・台木付け・紙巻作業で大きな負担が生じます。その中で毎日の作業である台木付けは改善の余地があり、残業時間短縮に繋がると考えこの活動を進めました。
- 2 万棒の倒れを防止する治具を作製しましたが、万棒と一緒に倒れる不具合がありました。その治具にマグネットシートを付ける事で押さえが効き、万棒と治具と一緒に倒れる不具合が改善されました。
- 3 台木乗せ段取り時間30%削減を目指した活動でした。結果31%というギリギリの達成でしたが、時間・残業の削減だけでなく、万棒が倒れやり直すというストレスも削減出来、満足の行く活動となりました。

評価ポイント

部門方針を忠実に捉え、QC活動の基本にそった現状把握から対象作業の問題点が的確に抽出されていた。また、対策に関しても単なる作業性の改善ではなく安全面も視野に入れ、対策の不具合点を修正しながら最終的に目標達成を成し遂げた。

東北コイルセンター／事務所Aチーム 経費削減 (動力費、支払手数料)

- 1 経費項目を理解する事から始め、単純な削減／節約ではなく事業所全体の仕組みへの提言が出来る様な活動内容を意識。動力費・工場照明の省電力化、支払手数料・産廃処理費の削減に取り組みました。
- 2 普段の業務では携わらない分野で、どこに相談するかも手探り状態でスタートしました。ネットで関連企業を検索し電話で問い合わせ、来社頂いて教えてもらう。これを役割分担して繰り返しました。
- 3 工場照明の省電力化は業者からの見積りや助言をもとにLED化を提言し、次年度以降の設備計画に検討してもらえ、事になりました。また、分別によりゴミ重量・体積を減らす事で、処分費用の削減に寄与しました。

評価ポイント

小さく纏まりそうな懸念があるテーマだったが、途中で方向を見直し最終的に満足の行く活動になった。従来にはない業者を自分たちで探して交渉したり、LED照明化の提案実施等、自分たちで考え動いた結果が良く現れた活動だった。

作業効率向上 (刃組時間短縮)

1 カッタースタンド老朽化に伴う設備更新に問題意識を持ち、作業を見直し、作業効率アップによる加工を実現したいと考えました。

2 現状把握のデータ取り、データ集計、個人別作業方法に違いがないかの確認、そして手順、工具の置き場などバラツキがないかの確認に苦労しました。工夫した事はビデオ撮影を行い、作業者の癖などを確認した点です。

3 対策実施により、刃組時間が1本当たり46分短縮、1日60分、年間252時間削減。予想金額効果は63万円を創出、定時間当たりの加工コイル本数が1本向上し、残業時間削減にも繋がりました。

評価ポイント

現状把握と要因解析がしっかりと出来ており、ライナー数値部分への目印、フィンガーの色別、使用頻度の高い工具移動等の対策に繋がっている。60分/日、252時間/年削減、63万円/年予想金額効果と、ビデオカメラを利用した要因解析を評価した。

小集団活動お疲れ様でした。平成29年度下期は全社で71の小集団が活動を実施しました。うち4チームが優秀小集団に選出されました。選出された4チームの活動には特筆すべき点が多く見られます。所属長より評価コメントも頂いておりますので、どのような点が評価されているのかななどを今後の活動の参考にしてください。

各活動のまとめシートはNotesに公開してあります。発表映像も皆さんで閲覧してみてください。これからの皆さんの小集団活動がより活性化していくよう環境づくりを進めてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

研修 実施報告

QCサークル研修

6月21日から22日にかけて、一泊二日のQCサークル研修が湯沢ニューオータニにて開催されました。様々な業種・業界から80名が集まり、QCの講義やQC手法を学ぶためのグループワーク等に取り組みました。当社からは新潟県内外の事業所から合わせて7名が参加し、今回は内2名の参加レポートを紹介いたします。

QC概論やQC7つ道具の講義もありましたが、多くの時間はチームでの課題解決の時間でした。会社も年代も異なる人たちと意見を交わしながら、慣れない特性要因図やヒストグラムを手書きで作成するのは大変でしたが、良い経験になりました。

日頃の業務の多忙さに甘んじず、常に問題意識を持ち、今回学んだ事を仕事へ活かせるよう取り組みたいと思います。

QCサークル研修会は初参加でしたが、異業種の方々とのグループディスカッションでは様々な意見交換を行う事ができました。また、講義についてもQCについてやQC7手法についての詳しい説明を受け、再度理解を深める事ができました。

QC検定受験の際に手法についての勉強はしましたが、実際にパレート図やヒストグラムを作成するのは未経験の為、今回作成してみた事で作成時の注意点等を確認でき良い経験になりました。この研修を通して学んだ事を今後の業務に活かしていきたいように取り組んでいきたいです。

Pickup!

地域経済を牽引する 企業として国から 認定を受けました

この度当社は、国の認定する「地域未来牽引企業」に認定されました。これは、経済産業省が地域経済牽引事業の担い手となりうる地域の中核企業として、全国2,148社（新潟県では61社）を選定したものです。

選定基準としては、高い付加価値を創出していること等の定量的な指標に加え、自治体や商工団体、金融機関等の関係者からの今後の地域経済への貢献等が期待される企業としての推薦という2つの方法に、外部有識者委員会の検討も踏まえたものであり、これまでの当社の経済活動が地域の発展に資すると認められた、非常に名誉な認定と言えます。

この認定を受けたことにより、「地域未来投資促進法」などの支援施策を活用することが可能となり、事業を二層発展させ、地域経済の中核となって活躍することを期待されていると言えます。具体的には、成



長分野に進出するための事業化戦略や販路開拓の専門家によるアドバイス、地域の特性に応じた事業計画を策定し認定を受けることで、先進的な事業に必要な設備投資に対する法人税減税や固定資産税の減免、各種補助金認定への加算、他の事業者の優良な取り組み事例の情報共有など、様々な支援を多角的かつワンストップで受けることが可能になります。

既に新潟鋼板センターの加工品販売を目的とした設備投資（ファイバーレーザー加工機）に対して、地域経済を牽引する事業計画として新潟県の承認を受けることができました。今後は各事業部との連携によりこの支援を活用する中で、事業の付加価値創出に向けて活動をしていきます。

「新たな価値と領域をつかむ」藤田金屬の新しい取り組みにご期待ください。